

## 学会参加奨励金報告書

学籍番号：R23-068

名前：福田隼登

学会名：第 65 回日本核医学会学術総会

開催場所：京都市勧業館 みやこめっせ

開催期間：2025 年 11 月 13 日（木）～15 日（土）

発表セッション名：聴講のみのため省略

発表形態：聴講のみのため省略

発表日時：聴講のみのため省略

### 1. 発表の概要

聴講のみのため省略

### 2. 質疑応答内容 他

聴講のみのため省略

### 3. 関連発表の内容

聴講のみのため省略

### 4. 学会参加・発表の感想

※①800～1,200 文字以上

②参加のみの場合は、400 字～500 字

私は今回の学会でとても多くの学びを得ました。特に印象に残っているのは核医学治療の分野です。<sup>177</sup>Lu-PSMA と <sup>225</sup>Ac-PSMA は最近保険適用されたこともあり、何度も講演を聞く機会がありました。去勢抵抗性前立腺がんに対して核医学で治療が可能になったという事実は、私にとって非常に大きな印象を与えました。一方で、<sup>225</sup>Ac-PSMA では唾液腺障害が課題であるという発表もあり、実際に臨床で使用するには排水の問題など、まだ多くの課題が残されていると感じました。

核医学シンポジウムでは、アミロイド PET による ARIA の講演を伺いました。この講演を拝聴し、アミロイド  $\beta$  の除去は決して安易に行えるものではないと感じました。また、学会ではメリットや効果を示す発表が多いという印象があったため、課題だけを取り上げた講演に驚きを覚えました。

一般演題の心アミロイドーシスの口演では、類似した研究が多くありましたが、その中でパワーポイントの作り方やデータの提示方法によって、伝わり方や理解のしやすさが大きく変わることを実感しました。

機器展示でもセラノスティクスを用いた説明を多く聞きました。機器が進歩していく中で、私たち診療放射線技師も知識を増やし、より良い核医学診断・核医学治療を行うべきであると強く感じました。

6. 現地参加がわかる写真(4枚)

